あすを創る

トップが語る 企業と製品

サン・ファスナー部品
若野　繁治 社長

今年は重量物用の設備固定用ボルトをPRする…と若野社長

―2011年の経営環境をどう位置づけ、事業展開しますか。

「今年よくなるという思いは正直、持っていない。当社が立地する大阪府東大阪市の製造業の数もかつて1万社以上あったのが今は6000社を割り込み、中小零細の経営環境は厳しいのが実情だ。その中で生き残るために何をするか。当社では、今年の目標を『全員参加で5Sの確立』と定めた。5Sは整理・整頓・清掃・清潔・しつけで改めて基本を徹底する。特にしつけは社長の私が担当し、力を入れ指導する。目標は毎年、大きな看板にし生産現場に掲げており、社員が常に意識できるようにしている」

―製品戦略は。

「当社は機械設備などの固定を行う調整（アジャスト）ボルトの総合メーカー。製品は顧客ニーズに応える形で、標準タイプに防振用、耐震用、重量物用などバリエーションを広げ、現在40近いアイテムがある。昨年6月には設備固定用ナットも開発した。今年は重量物用の設備固定用ボルトのPRを強化する。昨年11月に発売したネジ径30ミリメートルのボルトで、半導体・液晶製造設備の固定調整用途がメーン。ボルト脚部は独自のドーム形状で応力を分散させ大きな荷重に耐えられる特徴を継承しつつ、他社製品に比べコスト競争力があるが、当社は力のある複数の商社とタイアップしている。モノづくりに専念し、品質を高めコストや納期対応が優れた製品づくりを目指すためだ。生産体制は、かつて数を作り在庫も多く抱えるスタイルだった。今はそんな広い作業を1社で行えるのは武器で、検査体制もある取引先からは無検査取引先認定を受け充実させている。もちろん協力会社のネットワークも活用し、中核の約30社とは連携を強めている」

―今後の事業の抱負を。

「会社を設立し24年間、身の丈経営を常に心がけてきた。そしてメーカーである以上、毎年一つでも新製品を出すことを目指してきた。新製品の開発はリスクも高いのが特徴だ。半導体関連は需要が伸びていることもあり、攻勢をかける」

―モノづくりの特徴や強みで感じていることは。

「ネジメーカーで商社機能を持つところもある時代でなく、セル生産を導入して在庫調整しながら無駄なものを無くし、利益確保に努めている。一方で生産現場の設備投資を惜しまずにやってきた。プレスや溶接、旋盤、レーザー加工など幅